

対談

衆議院議員

平沼赳夫

上智大学名誉教授

渡部昇一

この国の進む道の



郵政民営化に反対して除名。

志を貫いて自民党復帰を拒否。無所属と

なった衆議院議員の平沼赳夫氏は、

保守の旗幟を鮮明に、自主憲法制定に

政治生命を燃やす。対する

本誌おなじみの渡部昇一氏は、

東京裁判史観叩きつぶしに使命を

燃やす。お二人の語り合

日本の進むべき道。

平沼赳夫——ひらぬま・たけお

昭和14年東京都生まれ。37年慶應義塾大学法学部卒業後、日東紡績に11年間勤務。故・中川一郎元農林水産大臣秘書を経て、55年衆議院議員初当選。以降9期連続当選。運輸大臣、通商産業大臣、経済産業大臣などを歴任。現在無所属。著書に『新国家論』（中央公論新社）などがある。

渡部昇一——わたなべ・しょういち

昭和5年山形県生まれ。30年上智大学大学院西洋文化研究科修士課程卒業、ドイツ・ミュンスター大学、英国オックスフォード大学留学。Dr.Phil.（哲学博士）、Dr.Phil.h.c.（名誉哲学博士）を受ける。上智大学教授を経て平成13年から名誉教授。『ローマの名言 一日一言』『四書五経 一日一言』（ともに致知出版社）など著書多数。

特集 いまをどう生きるのか

支持率低落の真因

平沼 渡部先生とは何度かお会いしています。じっくりとお話するのは初めてです。

渡部 お会いしたのは何かの集まりであるとか、どなたかの結婚式であるとか、ですからね。

平沼 きょうは楽しみです。

渡部 こちらこそ。それにしても麻生首相の支持率が止まりません。麻生さんには保守層の

アとなるしっかりした支持基盤があったはずなんです。その時その時で浮動層が揺れ動くことはあるでしょう。しかし、保守派の中心はしっかりしているから、支持率が三十割を切ることはないと思っ

ていました。それがあつという間に一桁台に割り込む感じですよ。

平沼 いろいろ言われていますが、私は田母神問題への対処が決定的

だったと思います。渡部 やはりそうお考えですか。

私もまったく同感です。

平沼 田母神論文が表面化したら、有無を言わず一方的に幕僚長を蹴首してしまった。その理由が、論文の趣旨が国家の方針に反しているからということなんだが、国家の方針とは具体的には村山談話

なものです。私は麻生さんとは非常に仲がいいんですが、村山談話にそこまで拘束されていたとは驚きを禁じ得ません。あれで保守支持

の固い層が失望して、一斉に離れてしまった。支持率低下の真因はそれだと思っています。

渡部 私も同じことを考えています。だが、マスメディアは定額

給付金問題がどうの郵政民営化についての発言がどうのと枝葉末節のことばかり報じて、肝心のことは何も言わない。村山談話とは何

か、それに拘束されているのか、か、という問題を論点の中心に置かない。だから、政治の本質が見えないんです。

平沼 同じようなことは安倍晋三さんにもありました。憲法改正の問題、防衛庁の省昇格、防衛省の